

農作物病害虫発生現況情報（7月） 水稻編

1 いもち病（葉いもち）

(1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率（発病葉率0.2%以上）は、平年より低かった（図1）。

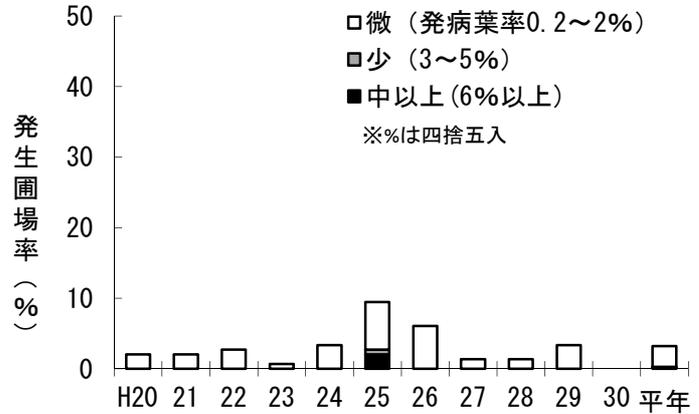


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（7月下旬）

2 紋枯病

(1) 7月下旬の巡回調査での発生圃場率は、ほぼ平年並であったが、程度がやや高かった（図2）。

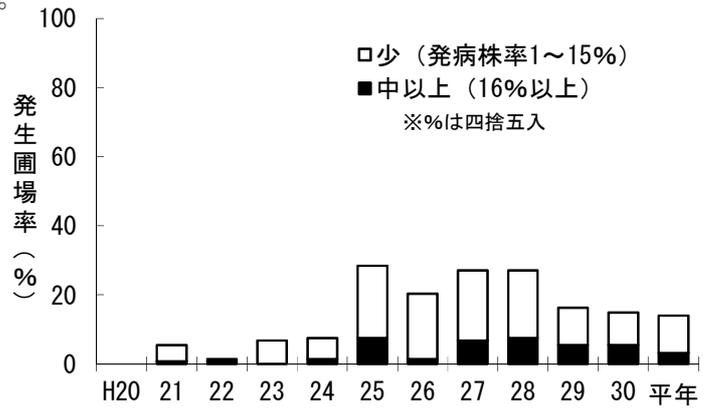


図2 紋枯病発生圃場率の年次推移（7月下旬）
※病斑が第4葉鞘以下の発病を含む

3 ばか苗病

(1) 7月上旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、平年より低かった（図3）。

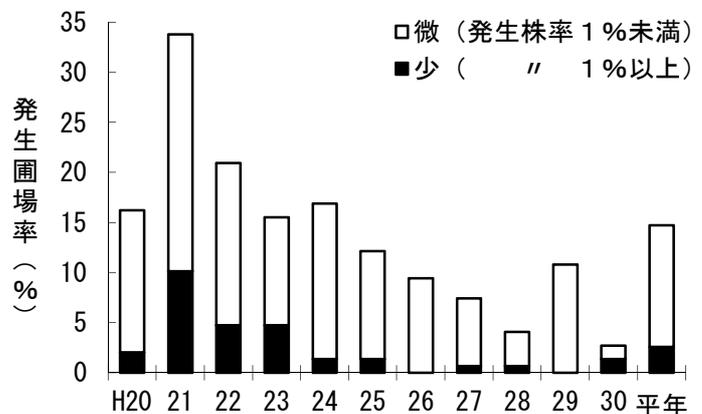


図3 ばか苗病発生圃場率の年次推移（7月上旬）

4 ごま葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（データ省略）。

5 斑点米カメムシ類

- (1) 予察灯におけるアカスジカスミカメの誘殺時期は、平年並であった(図4)。
- (2) 7月下旬の水田畦畔すくい取り調査(県内74地点)では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は平年よりやや低かった(図5)。
- (3) 7月下旬の巡回調査地点において、畦畔の草刈りを実施していない圃場では、実施していた圃場と比較して、カメムシ類が多くすくい取られた(図6)。
- (4) 基準圃場(北上市成田、イタリアンライグラス)では、7月第3半句以降カスミカメムシ類の発生が増加している(図7)。

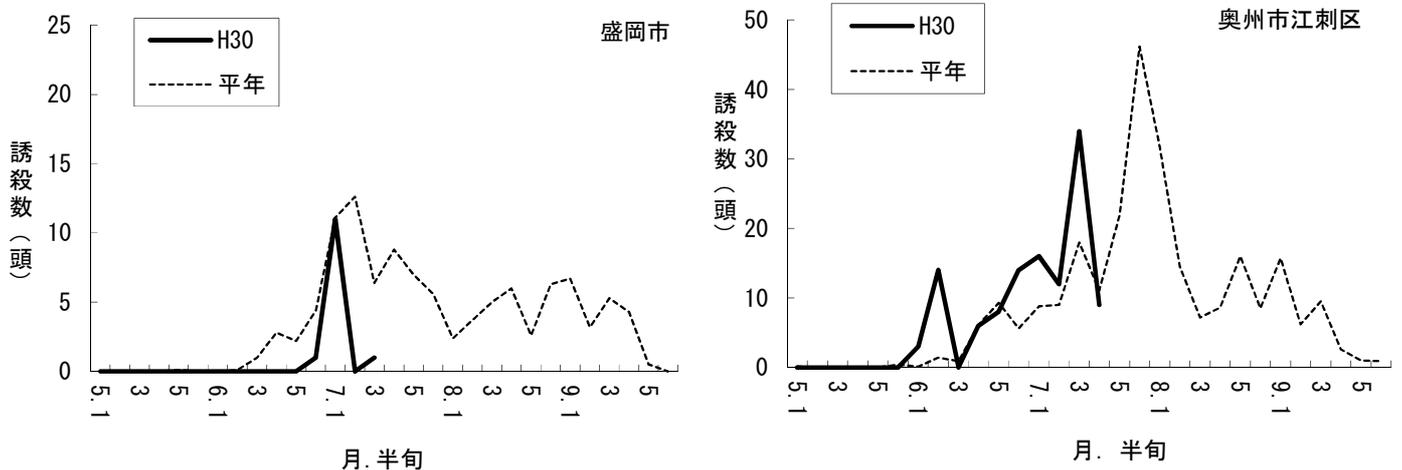


図4 予察灯におけるアカスジカスミカメの誘殺状況(7月第4半句現在)

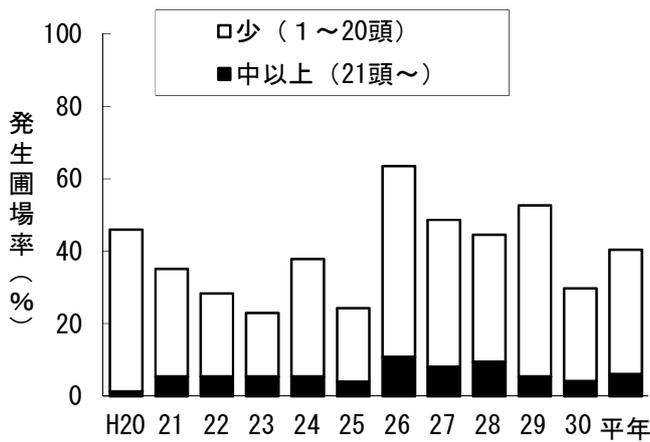


図5 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移(7月下旬、水田畦畔すくい取り、往復20回振)

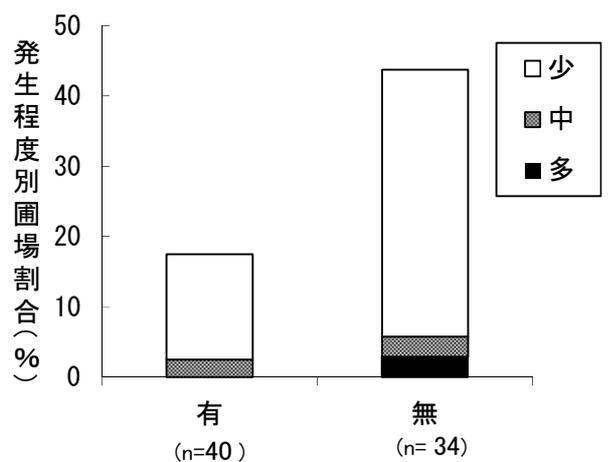


図6 畦畔の除草の有無とカスミカメムシ類発生程度別圃場割合(7月下旬、水田畦畔すくい取り、往復20回振)

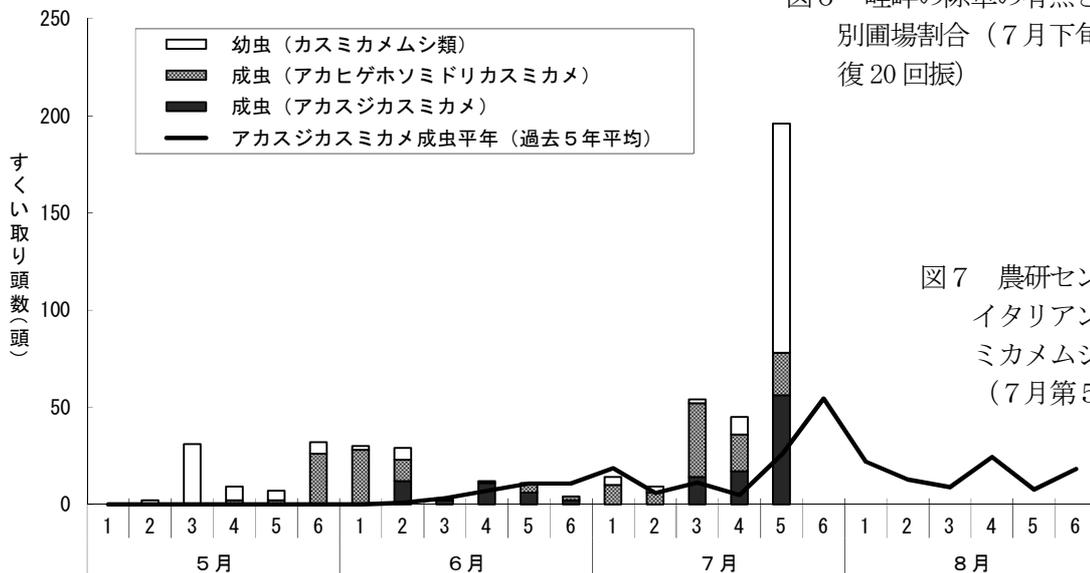


図7 農研センター内草地(北上市成田、イタリアンライグラス)におけるカスミカメムシ類の発生推移(7月第5半句現在、往復20回振)

6 フタオビコヤガ (イネアオムシ)

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査 (県内 39 地点) での第2世代幼虫の発生圃場率は、平年より少なかった (図8)。

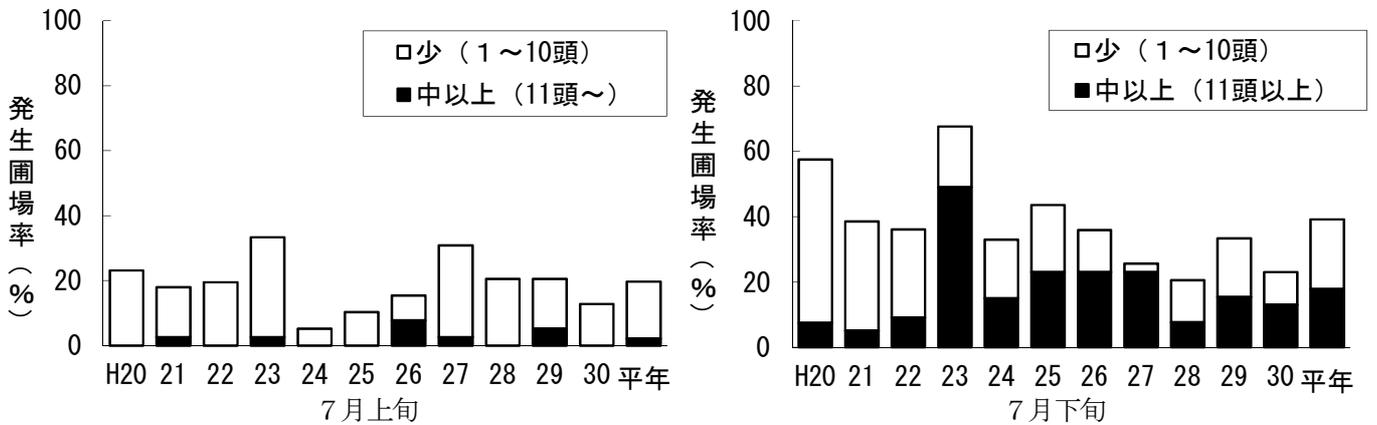


図8 フタオビコヤガ (イネアオムシ) 幼虫の発生圃場率の年次推移 (7月上下旬、本田すくい取り、往復20回振)

7 ウンカ類

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、1圃場において成虫が確認されたが、発生程度は低かった (データ省略)。

8 コバネイナゴ

(1) 7月上下旬の本田すくい取り調査では、発生圃場率は平年より高いが要防除水準 (100 頭以上) を超える発生は確認されなかった (図9)。

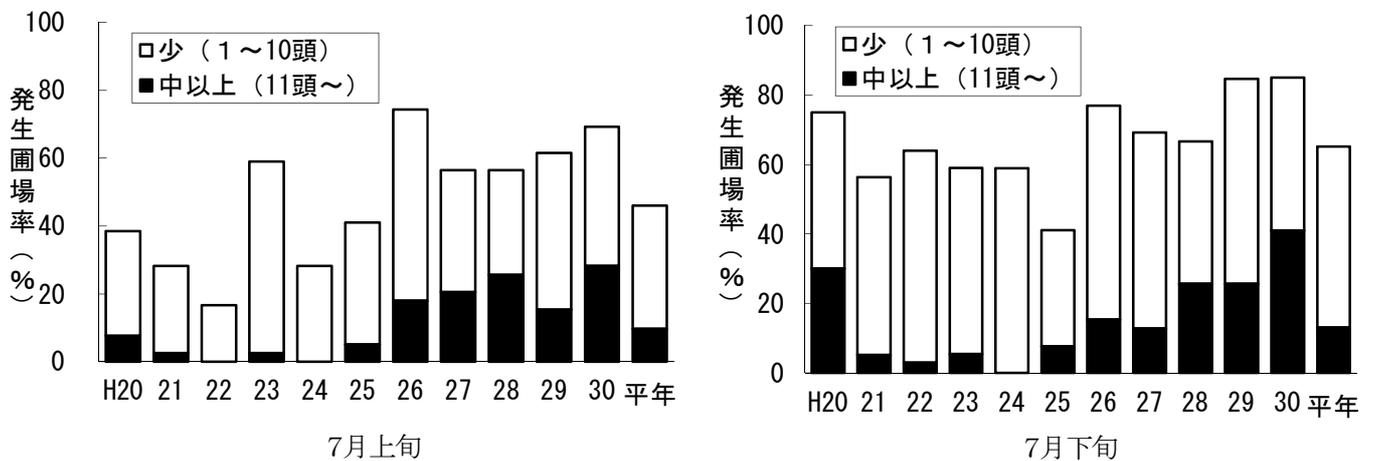


図9 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移 (7月上下旬、本田すくい取り、往復20回振)

9 ツマグロヨコバイ

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、発生は確認されなかった (データ省略)。

農作物病害虫発生現況情報（7月） りんご編

1 斑点落葉病

- (1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、ふじは平年よりやや高く、王林は平年よりやや低かった（図1）。ふじでは、発生程度が中以上の発生園地率が平年より高かった（図1）。
- (2) 地域別では、県北部と県中部で平年より発生園地率が高かった（図2）。
- (3) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）における発病葉率は、7月第2半旬に急増したものの平年より低く推移した（図3）。

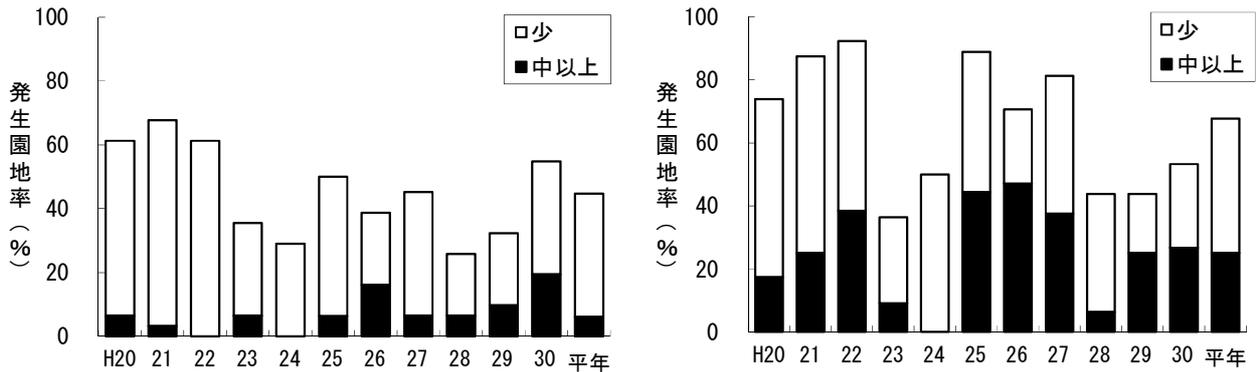


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（左図：ふじ、右図：王林、7月後半、徒長枝上位10葉）

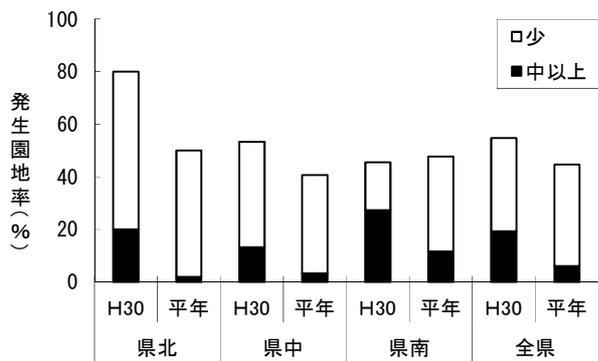


図2 斑点落葉病の地域別発生園地率（ふじ、7月後半）

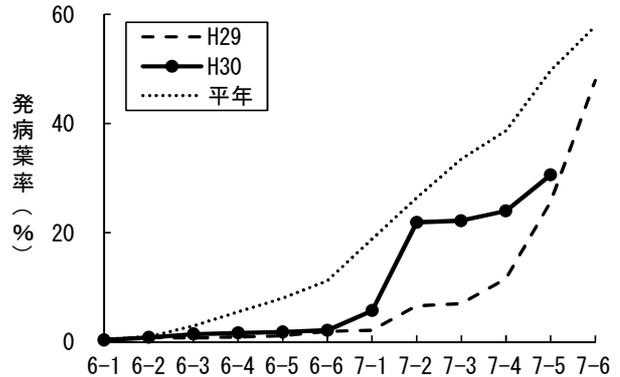


図3 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移（月-半旬、デリ系、新梢葉）

2 黒星病

- (1) 7月後半の巡回調査では、複数の園地で発生が確認され、そのうち1園地では、発生程度が中以上であった（図4）。

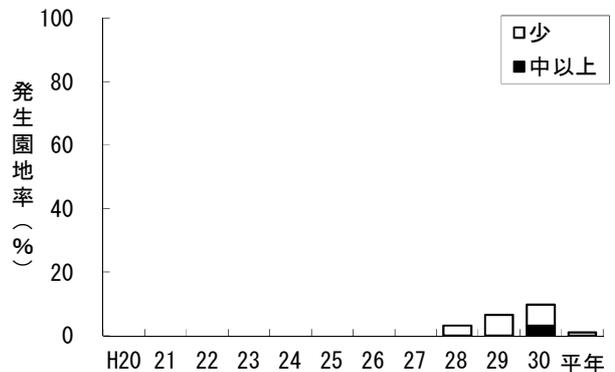


図4 黒星病の発生園地率の年次推移（7月後半、徒長枝葉）

3 褐斑病

(1) 7月後半の巡回調査では、複数の園地で発生が確認され、いずれも発生程度が中以上であった(図5)。発生が確認された園地は、昨年秋期の発生程度が非常に高かった。

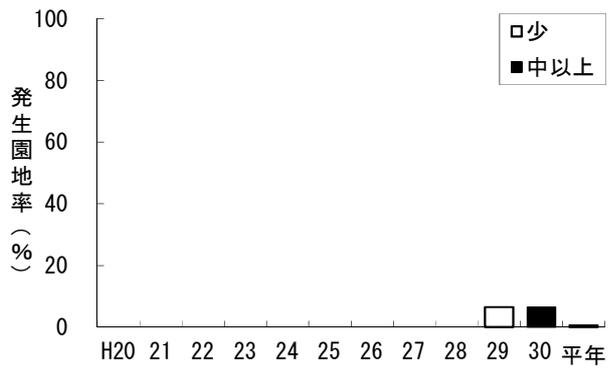


図5 褐斑病の発生園地率の年次推移(7月後半)

4 キンモンホソガ

(1) 7月後半の巡回調査でのキンモンホソガ第2世代の発生園地は見られなかった(図6)。

5 ギンモンハモグリガ

(1) 7月後半の巡回調査でのギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率は、平年より低かった(図7)。

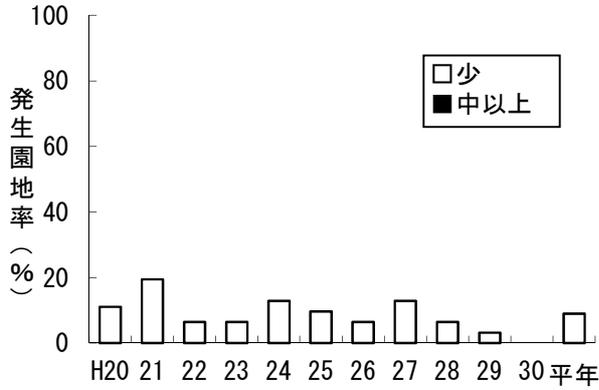


図6 キンモンホソガの発生園地率の年次推移(7月後半)

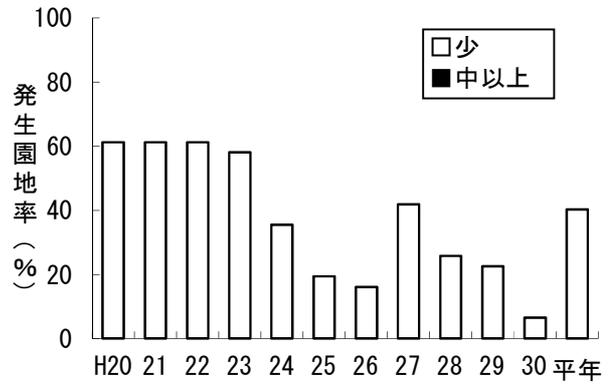


図7 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移(7月後半)

6 リンゴハダニ

(1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、目通り、樹上部とも平年よりやや低かった(図8)。

(2) 時期別発生園地率は、6月後半、7月前半は平年よりやや高かったが、7月後半は平年よりやや低かった(図9)。

(3) 地域別発生園地率は、県中部と県南部で、発生程度の高い園地が平年より多かった(図10)。

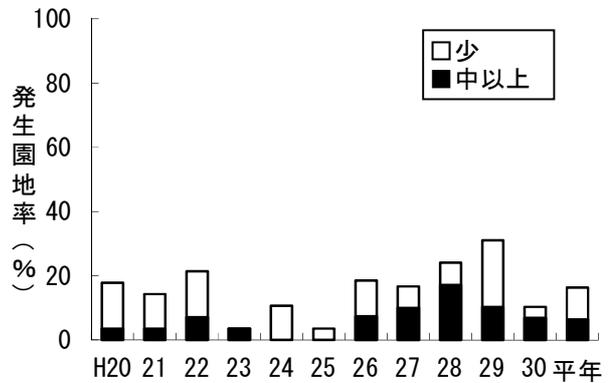
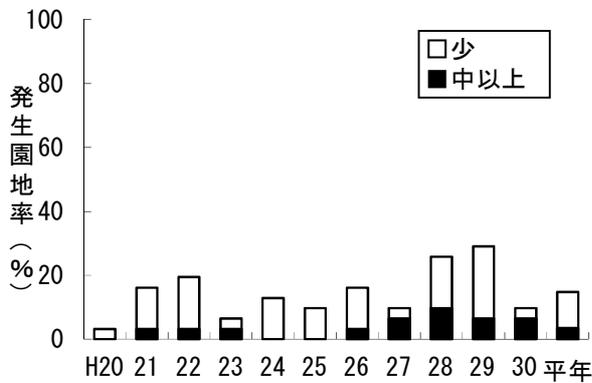


図8 リンゴハダニの発生園地率の年次推移(7月後半、左:目通り、右:樹上部)

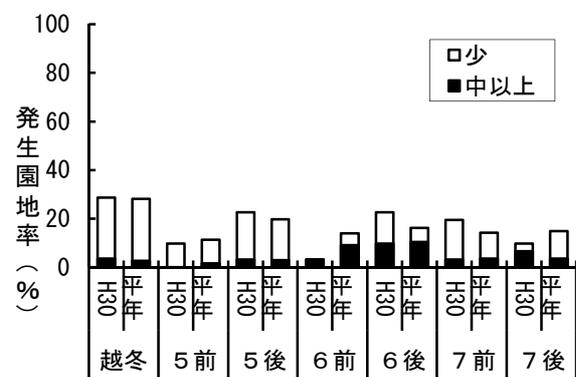


図9 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移(目通り)

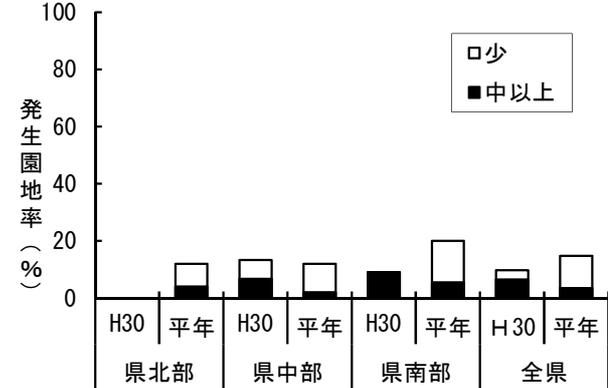


図10 リンゴハダニの地域別発生園地率(7月後半、目通り)

7 ナミハダニ

- (1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、目通りでは平年より低く、樹上部では平年並だった(図11)。
- (2) 時期別発生園地率は、6月後半、7月前半は平年よりやや高かったが、7月後半は平年よりやや低かった(図12)。
- (3) 地域別発生園地率は、県北部で平年よりやや高かった(図13)。

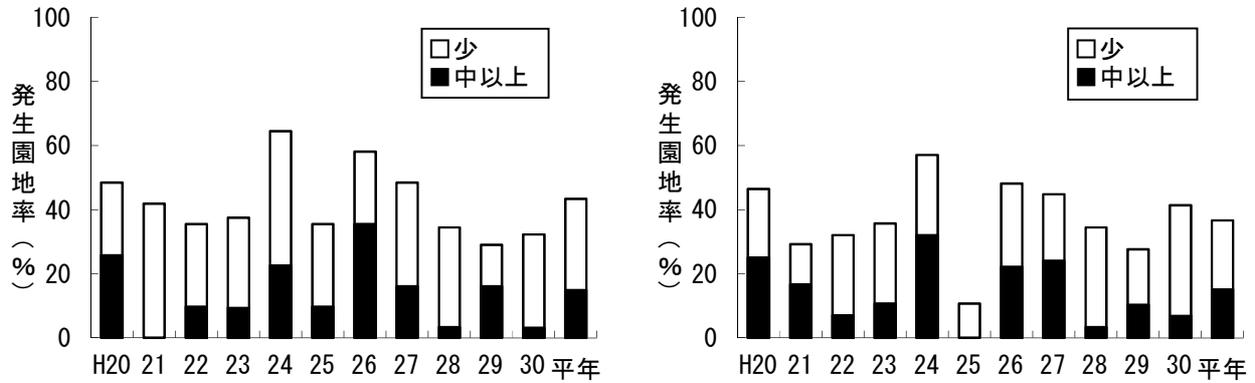


図11 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半、左：目通り、右：樹上部)

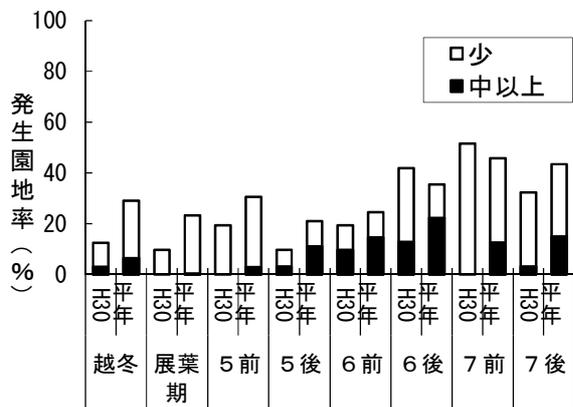


図12 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

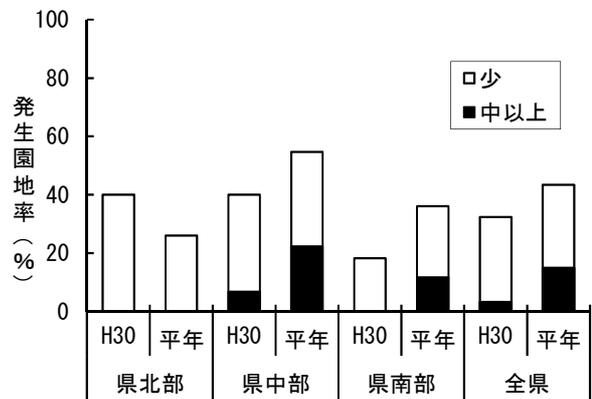


図13 ナミハダニの地域別発生園地率 (7月後半、目通り)

8 シンクイムシ類

- (1) 7月後半の巡回調査では、被害果は確認されなかった(図省略)。

9 果樹カメムシ類

- (1) 7月後半の巡回調査でのふじの被害果発生園地率は、平年よりやや高かった(図14)。さんさは、調査した6園地中3園地で被害果が確認された。
- (2) 被害果の発生園地率は、6月から7月前半にかけて平年より高く、7月後半は平年よりやや高かった(図15)。
- (3) チャバネアオカメムシの現地および基準圃場の集合フェロモントラップへの誘殺数は、平年並から平年より少なく推移したが、クサギカメムシの予察灯への誘殺数は7月からやや増加した(図16、17)。

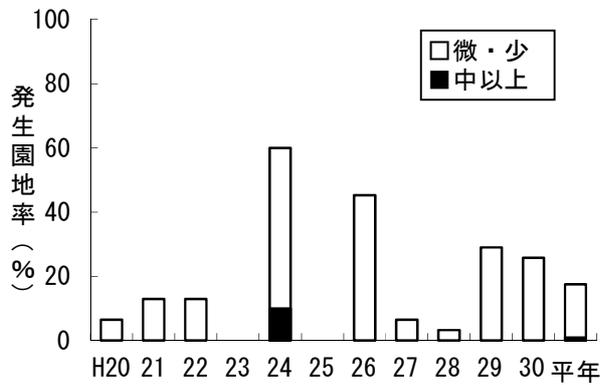


図14 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移(7月後半、ふじ)

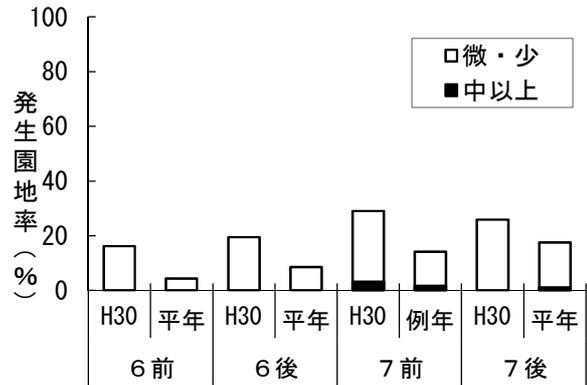


図15 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移(ふじ)

※7月前半はH24~H29の6か年平均を例年値とした

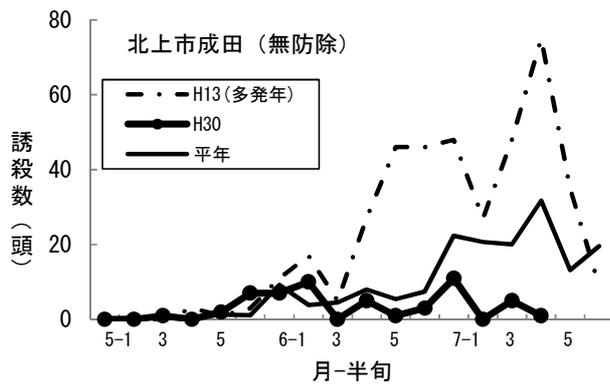


図16 基準圃場(北上市成田)におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

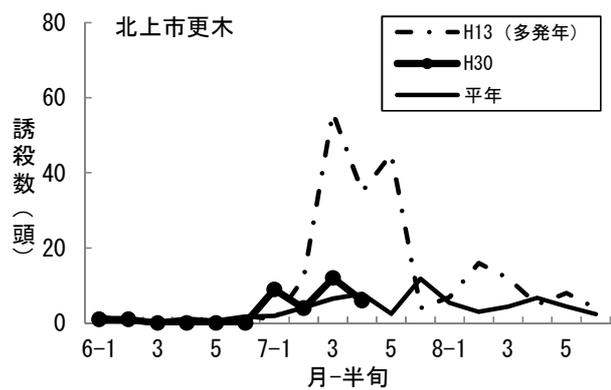


図17 北上市更木におけるクサギカメムシの予察灯への誘殺状況

農作物病害虫発生現況情報（7月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや低かった（図1）。

2 うどんこ病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は見られなかった（図2）。

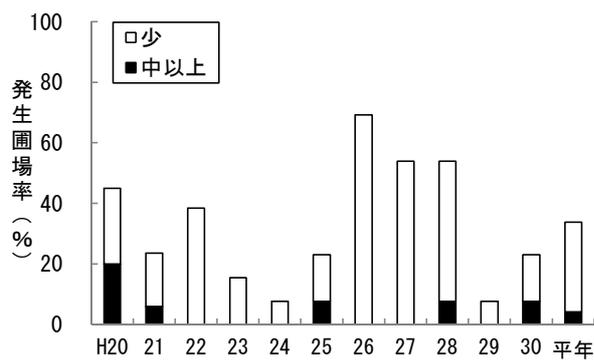


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

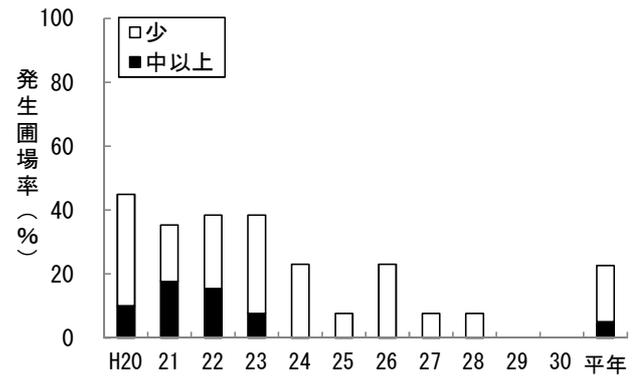


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

3 斑点細菌病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや低かった（図3）。

4 黒星病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は見られなかった（図4）。

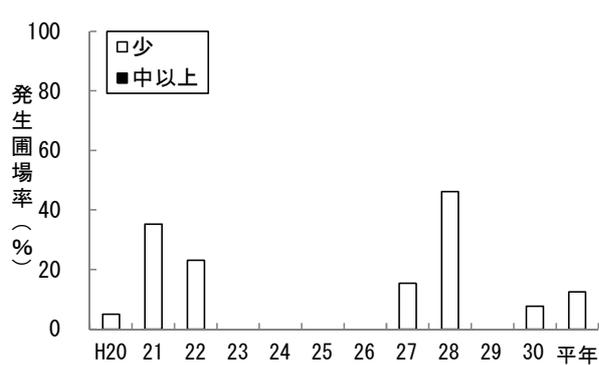


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

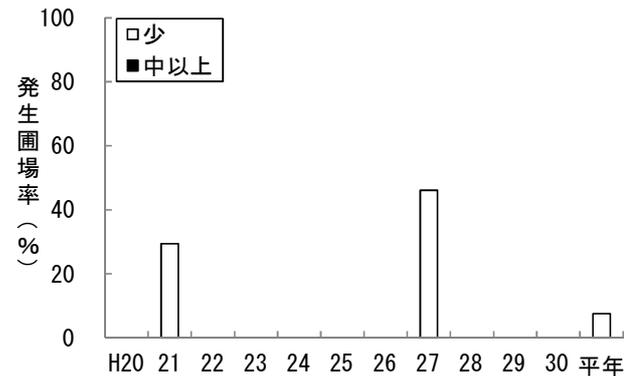


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

5 褐斑病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや低かった(図5)。

6 炭疽病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図6)。(平成30年7月25日発表の注意報第1号を参照)

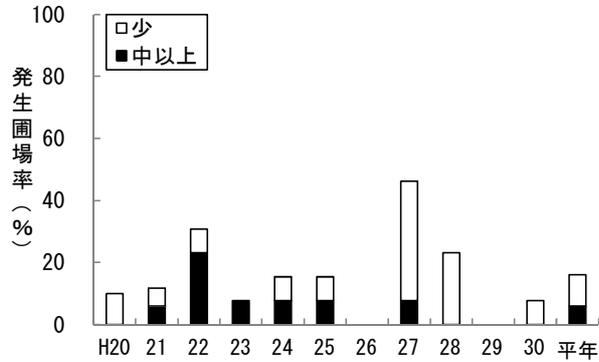


図5 褐斑病の発生圃場率の年次推移(7月下旬)

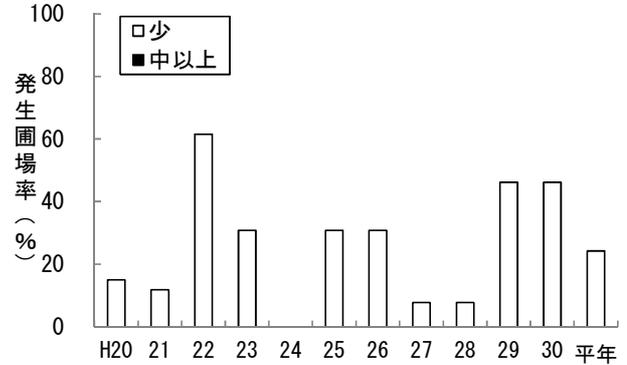


図6 炭疽病の発生圃場率の年次推移(7月下旬)

7 ワタアブラムシ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図7)。

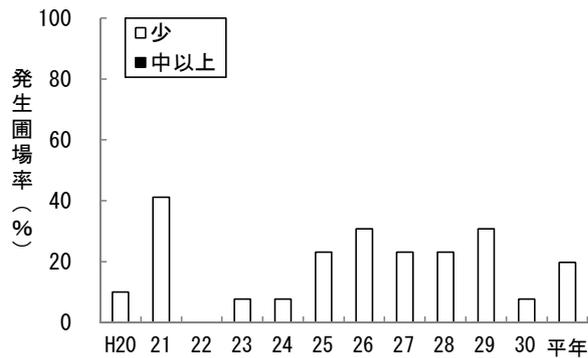


図7 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移(7月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（7月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 7月中旬の巡回調査では、産卵圃場率、程度とも平年より高く、幼虫発生圃場率は平年並であった（図1、図2）。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、7月に入るとほぼ平年並となった（図3）。

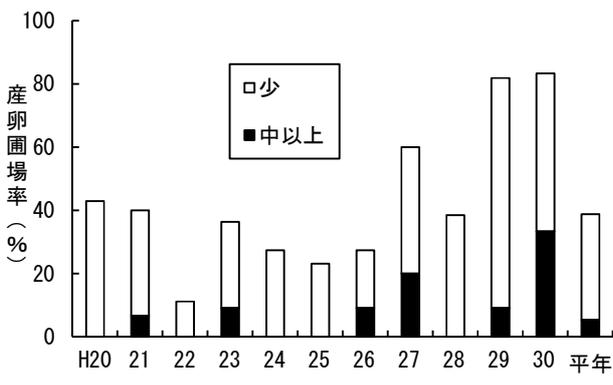


図1 コナガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

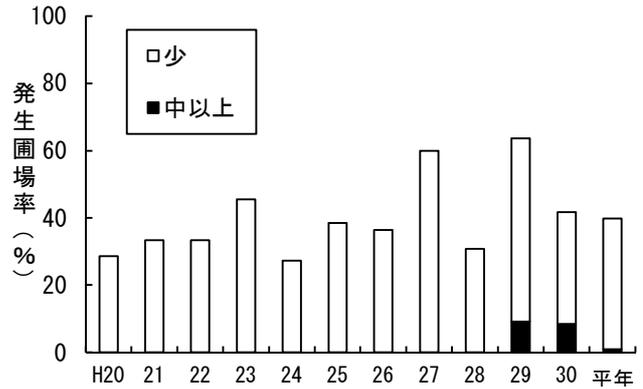


図2 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

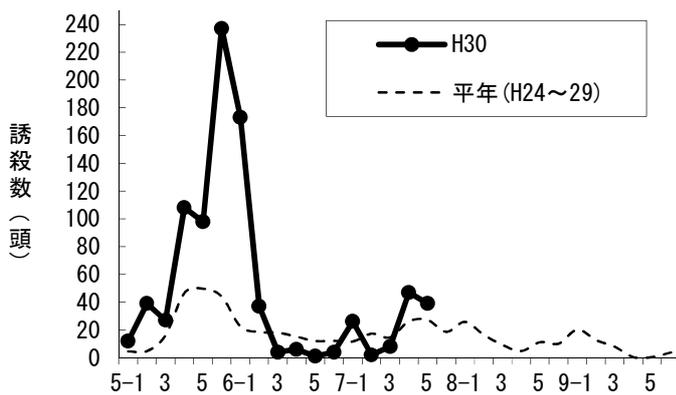


図3 岩手町におけるコナガの誘殺状況

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップによる第一世代の誘殺は7月第5半旬から認められ、ほぼ平年並であった（図4）。
- (2) 7月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年並であった（図5）。

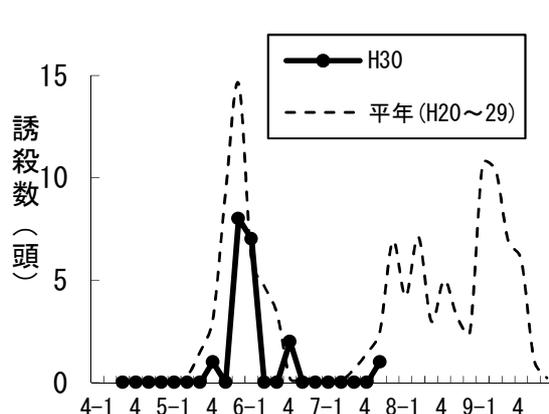


図4 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガの誘殺状況

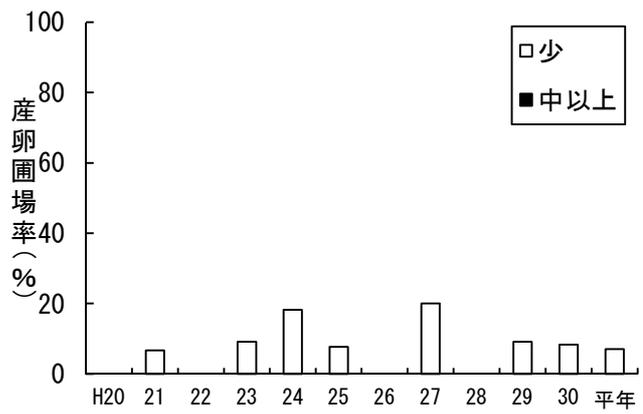


図5 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

3 ウワバ類

(1) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は平年並であった(図6)。

4 モンシロチョウ

(1) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は平年並であった(図7)。

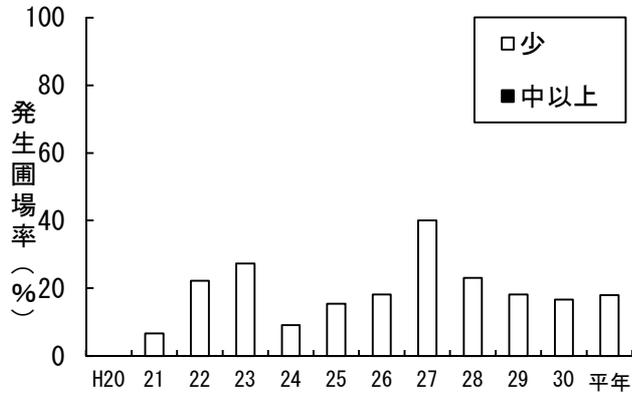


図6 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移
(7月中旬)

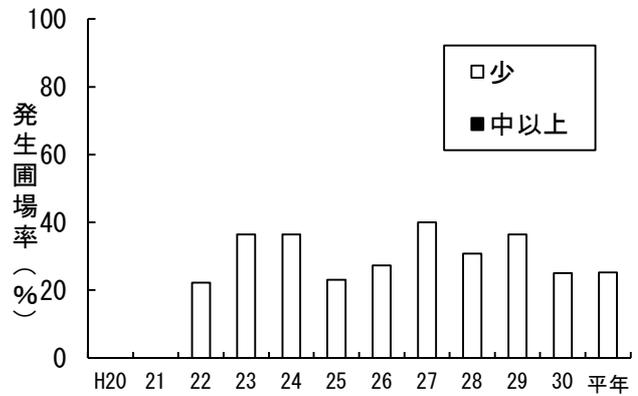


図7 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移
(7月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（7月） ねぎ編

1 さび病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図1)。

2 べと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図2)。

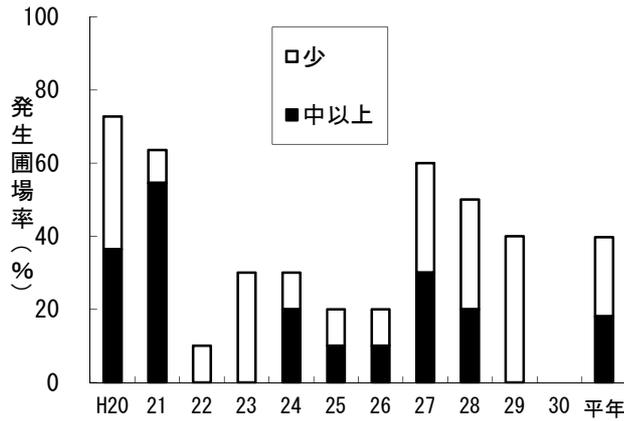


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

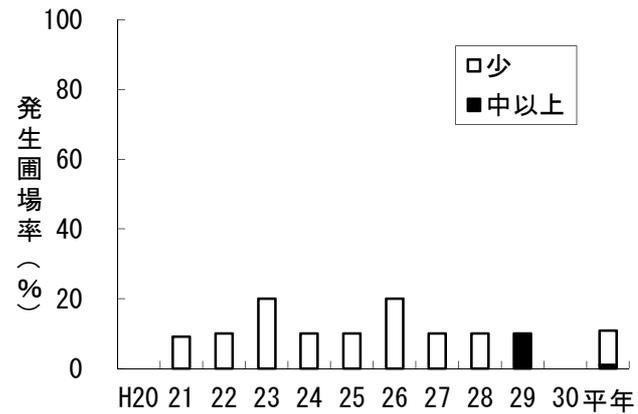


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

3 黒斑病・葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図3)。

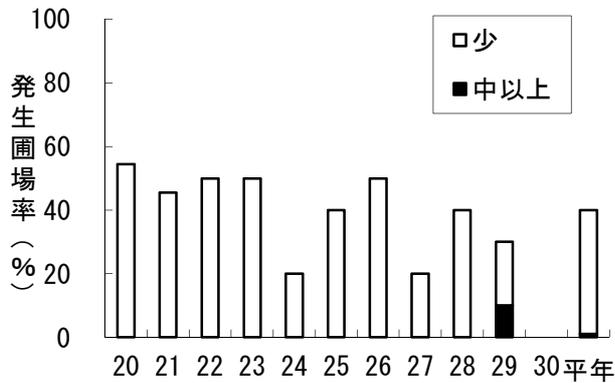


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

4 ネギコガ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図4)。

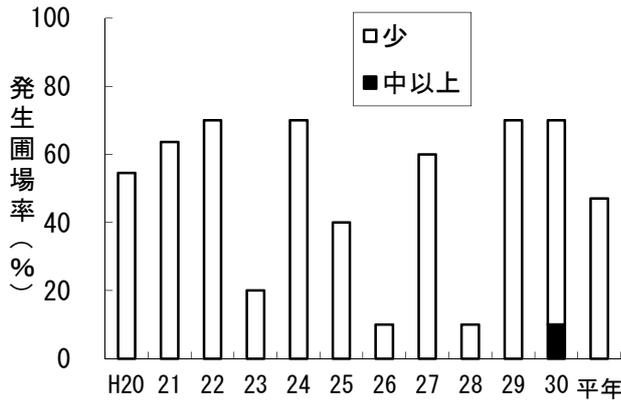


図4 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

5 ネギハモグリバエ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図5)。

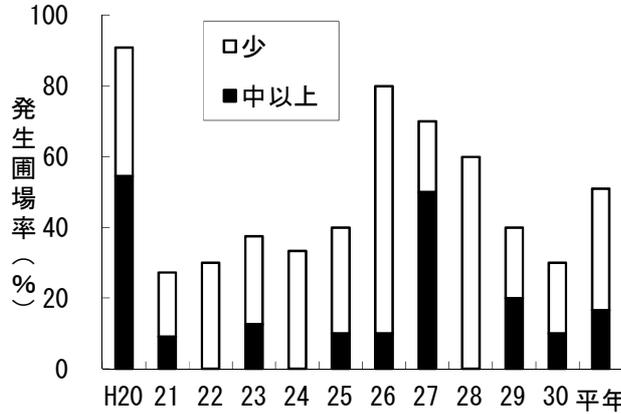


図5 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

6 ネギアザミウマ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや高かった(図6)。

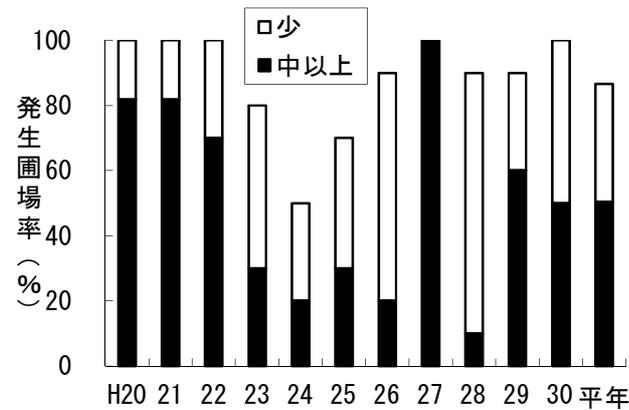


図6 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（7月）りんどう編

1 葉枯病

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かったが、程度の高い圃場が見られた（図1）。
- (2) 採花部での発生は見られなかった。

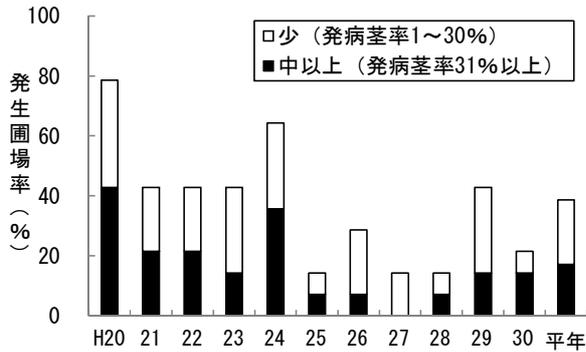


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

2 褐斑病

- (1) 7月下旬の巡回調査では、例年どおり発生は確認されなかった。

3 ハダニ類

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった（図2）。

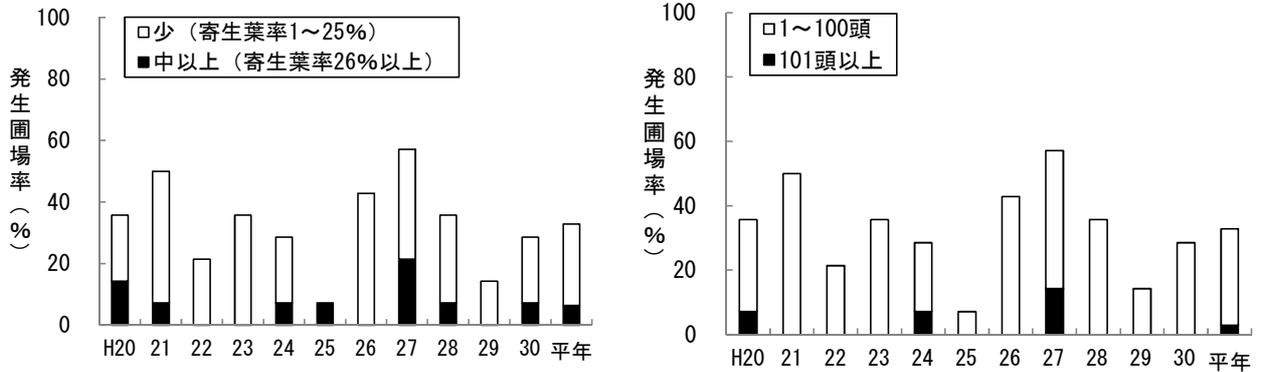


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、7月下旬）

4 リンドウホソハマキ

- (1) 7月下旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率は平年並、生長部および茎部の被害発生圃場率は平年よりやや低かった（図3）。

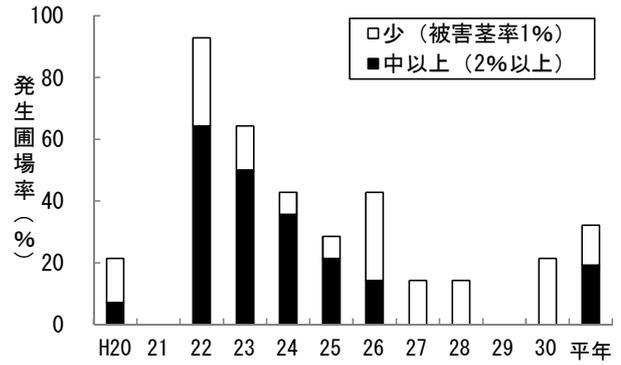
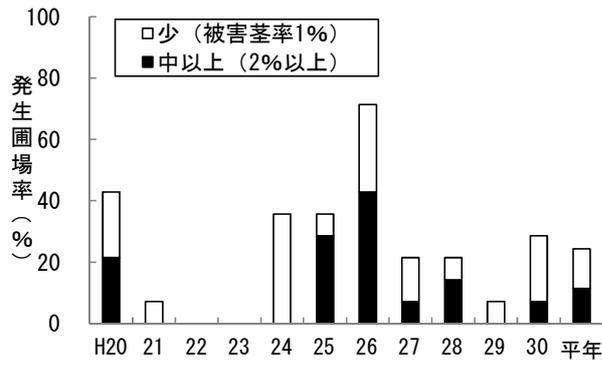


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左：潜葉痕、右：生長部・茎部、7月下旬)

5 アザミウマ類

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率、程度とも平年並であった (図4)。

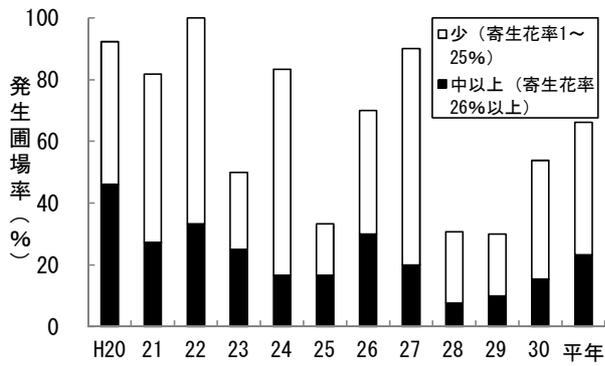


図4 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)